

日能研全国テスト「総合」を実施いたしました。

「これまでと同じ教育を続けていては、これからの時代に通用する力を育めない。」という考えのもと、高大の接続について真剣な議論が続けられています（大学入学者選抜改革もその中の1つの部分です）。その大学入学者選抜改革のなかで、「合教科・科目型」「総合型」について、その実施の検討が始められています。これは、『教科・科目の枠を超えた「思考力・判断力・表現力」を評価するためには、個々の教科・科目の範囲にとどまらず、複数の教科・科目を横断的・総合的に組み合わせる必要がある』と考えられているからです。文部科学省は、「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」を『確かな学力』と表現しています。大学入試改革で「合教科・科目型」「総合型」が検討されているのも、この『確かな学力』を評価するためですが、この『確かな学力』は、高校生・大学生になって育つものではなく、小学生の頃から育むことが大切です。

これまで、日能研は教科・科目の枠のなかで、ルーブリック評価を使いながら子ども達の『課題発見力・課題設定力・課題解決力』を評価してきました。今回日能研では、さらに一歩進み、「総合問題」という形で教科・科目の枠にとどまらない『チカラ』を『課題発見力・課題設定力・課題解決力』という視点で評価することにチャレンジしました。そこで問われるのは、教科・科目に固有の知識を自分がどれだけ知っているかという量だけではありません。学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めた質を問うような問題になっています。

総合では、最後に出題される【課題】に取り組むための準備として、さまざまな問いと向き合います。今回の全国テストでは、人に自分の意見や考えを伝えるときにどんな工夫ができるかについて考え、相手の立場に立って相手の意図や考えを想像することで、【課題】に取り組むための手ごかり（ものの考え方）を明らかにしていきました。ある町の「のぼり」をデザインするために、その町の特徴をつかんでわかりやすく表すという問いや、チラシのデザインに着目し、店側がどのような意図を持っているかを読みとるなどの問いに取り組むことで、日能研ルーブリックに示されている『課題発見・課題設定・課題解決』にチャレンジしてほしいという意図をこめて出題しました。

テスト当日、始めは子ども達も大きい解答欄に驚いていたり、見慣れない形式の出題に戸惑っている姿も見かけられましたが、たくさんの子がテスト時間をめいっぱい使って、【課題】にチャレンジしていました。

<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp

